

風土記の丘の花だより¹³⁸

今、そしてこれから見られる植物(2022年6月11日)

近畿地方より先に関東の辺りが梅雨入りしたようですね。どんな具合なんでしょうね。谷山家の庭のアガパンサスの花茎が1メートルほどに伸びています。そろそろここで紹介できそうです。



中央の階段をのぼり、水路にかかる橋を渡ると左側に真っ赤なアメリカデイゴの花が咲いています。別名を「海紅豆・カイコウズ」といいます。江戸時代に入ってきたブラジル原産といわれる木です。マメ科の植物で、花の形が独特です。でも刺があるので、注意して観察してください。ここでは年に3回開花します。



柳川家の西側、水路と坂道との間に黄色いキンシバイの花が咲いています。丈の低い木なので、ちょっとのぞき込んでいただかないと見えないかも知れません。オトギリソウ科の植物で、よく似たビヨウナギとともに花壇や庭に植えられます。花の中に長い雄しべがいっぱいあるのがビヨウナギです。一方キンシバイはあっさりしています。



136号でチラっと書きましたが、ヒメジョオンがいっぱい咲いています。これは万葉植物園の展望台下で撮った写真です。修復古墳でも一面に咲いています。花もきれいですが、群生は真っ白いじゅうたんのようです。と感じるのは、よほどの植物ずきな人だけでしょうね。もうすぐ草刈り機できれいにして下さることでしょう。



草むらでひととき目立つ大きな草、ヨウシュヤマゴボウに花が咲いています。草は大きいのに花は数mmしかありません。実が熟すと、毒々しい紫色になり、子どもは色水遊びに使います。よく「ヨウシュは洋酒のことですか」と聞かれますが、「洋種」です。北アメリカ原産の外来植物です。毒があるので、決して口にしないでください。

松下